卒業論文・卒業研究の要旨

論文題目	日本国内における英語表記サインの特徴と課題 -鎌倉の訪日観光客向けサインを中心として-
氏名	津島心海
メジャー	言語教育
マイナー	言語学
(要旨) 近年、日本の都市部を中心に、英語や韓国語、中国語など多言語で表記されたサイン（掲示や注意書きなど）を見かける機会が増加している。この背景には、訪日外国人観光客の増加、多文化共生社会の進展、国際イベントの開催などが影響していると考えられる。しかしながら、こうした多言語サインが十分に機能しているかについては、必ずしも検証されておらず、特に英語表記のサインに関しては、その表記方法や伝達の明確性に課題があると指摘されることが多い。本卒業論文はその中でも英語表記サインに注目し、日本語表記サインとの比較を通じて、日本国内における英語表記サインの特徴と課題を明らかにすることを目的としている。観光地として日本国内外から多くの訪問者を迎える古都鎌倉における 444 件のサインを収集し、それらの表記方法や視認性、情報伝達の有効性について分析した。さらに 2023 年から 2024 年に収集した日本各地における様々な都市の 135 の事例も踏まえ、英語表記サインの特徴をより包括的に検討した。その結果、日本国内の英語表記サインの課題として、表記の統一性の欠如や視認性の低さといった課題が浮き彫りとなり、今後、これらの問題を解決するための具体的なガイドラインの策定が求められることを主張した。本研究のように、日英対照の観点から言語景観を分析する試みは、日本の公共空間における情報伝達の改善のみならず、日本文化の理解促進にも寄与することが期待される。今後は、他の地域や異なる環境における英語表記サインの事例を収集、分析することを通じて、より包括的な視点から効果的なサインデザインのあり方を探求していく必要がある。	
(指導教員の推薦のコメント) 本卒業論文は著者である津島心海が 3 年次のセミナー論文から取り組んでいる日本の都市における言語景観の分析を継続して行ったものである。国内外から多くの観光客を受け入れている古都鎌倉における日本語と英語によるサインを分析し、その言語的特徴と表記方法に関する課題について考察している。筆者は鎌倉市内における 400 を超える看板や注意書きなどのサインを収集し、サインの場所、サインの目的や機能などにより、言語的特徴がいかに異なっているのかを明らかにしている。言語景観 (linguistic landscape) に関する研究は、近年言語学の分野において非常に注目を集めており、インバウンド需要が高まる日本において今後更なる分析が求められる分野である。多言語社会や多文化共生社会における社会貢献へとつながる非常に意欲的で実証性のある論文であるため、優秀卒業論文として推薦した。	